

成長・貢献・感謝

羽地中学校
学校だより 30 号
R1. 5. 21



中間 始まる テスト

私は一学期の中間テストで、席次15番以内に入る事が目標です。そのために、テスト範囲をしっかりと復習して、無回答がないようにしたいです。

私は理科があまり得意ではないので、家庭学習を決められた量より多く学習し、授業で習った内容をしっかりと覚えておきたいです。テストに向けてしっかりと頑張っていきたい。

1年3組 S・Wさん

勝負の年
いよいよ勝負の年が始まりました。この1年は僕達にとって、とても大事な1年になります。

羽地中の最上級生として、また、進路を決める受験生として大事な時間です。1日1日をしっかりと楽しんで大切に、新入生歓迎競技大会や運動会、地区陸上、合唱コンクールなどの行事にしっかりと挑戦して、この1年間、頑張っていきたいです。

2年生の時に出来なかったことを3年生で出来るようにし、成長できるようにしていきたい。中学校生活が最後となるので、自分がやりたいことをこなしながら努力し、いきたい高校にいけるよう、授業に集中して高校入試に臨んでいきたい。

3年1組 S・Tさん

大きな目標
私の学習面での決意は、「今までを改める」です。一・二年生の学習を振り返り、自分がやってきたことを再確認することで、三年生の学習をさらに深めていきたいと思えます。

生活面での決意は、「責任を果たす」です。早寝早起きから、清掃などの当番活動を人まかせにせず、自分から先に動くようにして責任を果たしていきたいです。

部活動では、積極的に部活動に参加し、先輩としてリードできる立場になりたいと思えます。

最後に、進路を大学まで決めていきたいです。なんとなくや家が近いからではなく、自分の夢を叶えたから、この学校で学ぶという大きな目標を見つけていきたいです。

3年2組 K・Yさん

0%か100%が心地よい

続 うちの火星人 平岡禎之 著

教育講演会にお呼びしたい方です。



地元紙「沖縄タイムス」で、「うちの火星人」の連載を開始したのは、2013年の夏のことでした。

当時、わが家は私達夫婦と2男2女の6人家族。そして、私を除く家族5人全員が脳の発達に凸凹の偏りがある「発達障がい」という特性を持っていました。

わが家の子どもたちは、幼いときはもちろん、成人したのも常識的にはありえない失敗の連続で、それは妻も同じでした。一般的にはできて当たり前と思えることが、私の家族にはとても難しいのです。

自分を客観視することが大の苦手で、先々の見通しを立てることも上手にできません。大きなイベントがあるたびに、オーパーワークがたたって寝込むこともしばしば。また、表情から相手の気持ちを読み解くということができないので、私の家族には皮肉はまったく通じません。

一方、家族は皆、五感が人一倍敏感で、足音や車のエンジン音だけで、誰が近づいてくるか察知したりもします。そうかと思えば、耳元で大きな音を立てられると殴られたような痛みを感じ、臭い匂いには悶絶し、のたうちまわることも。また、「ほどほど」という概念や感覚に乏しく、妻曰く「0%か100%が心地よい」のだそうです。だから、普段はともおっとりしているのに、ひとたびスイッチが入ると、信じられないような集中力を発揮したりもします。

そんな家族の失敗談と、特性を理解した上で日常生活を送るために取り入れている工夫を、四コママンガとエッセイに綴ったのが「うちの火星人」の連載でした。はじめにより抜粋